

第1学年図画工作科「スタンプで私もアーティスト！自分だけの特別アート！ ～うつした かたちから～」

学習指導者 平井 千春 ・ 支援員 内田 珠世

自由にスタンプ遊びをする中でできた形や色について、何に見えるか想像を広げたり、何（材料・色）をどうやって写したか（技）をクイズで共有したりし、さらに多様な材料・色や技を試しました。その後、教師の作品の例を見て、見付けた材料・色や技を使って「自分だけのスタンプアートをつくろう」と、題材の目標を設定し、作品づくりをしました。

〇〇のスタンプアートをつくろう

【見通し】

題材の目標を確認した後で、目標に向かって前時の終わりに考えた、「自然がいっぱいのスタンプアート」などといった自分がつくりたいイメージを再確認し、本時の課題解決への意欲を高めました。その後、イメージに合う作品にするためには材料・色や技をたくさん試すとよかったことを想起しました。また、試したい材料・色や技について、友達とインタビューし合うことで表出し具体的に製作の見通しをもちました。



【行動】

画用紙やお試しコーナーのロール紙に、イメージに合いそうな材料・色や技をたくさん試しながら、スタンプアートをつくりました。活動中は、スタンプ遊びで見付けた「並べる」「重ねる」などの技の掲示を見たり、アイデアをもらう、一緒に試すなど、友達と交流したりしながら試したいことを考えました。そうすることで、イメージに合う材料・色や技を見付けたり、イメージをどんどん更新させたりし、つくり、つくりかえながら作品づくりをしました。



【振り返り】

まず、全体で、教師からのインタビューに答える形で本時の学びを捉えました。次に友達同士でも尋ね合い、表出することで、今日自分が試した材料・色や技、それによってどんなスタンプアートになったかを捉え、自分の作品に対して意味や価値を感じていました。最後に、振り返りカードに「イメージに合う作品になった」「イメージが広がった」などの項目を三段階で自己評価し、「友達に相談した」などの項目に丸を付けてできた理由を振り返ることで、今日頑張ったことや協働のよさを実感していきました。



成果と課題

〇たくさん試したいと思える十分な材料の用意や、すぐに試せる班ごとの場の設定により、イメージに合う表し方を考えたり、豊かにイメージを広げたりすることができた。動線上に技を掲示したことで自然な対話が生まれた班も見られた。
▲豊かに共調整しながら活動できた班と自分の製作に没頭して対話がなかった班で二極化していた。子供たちが友達と交流したいと思える場の設定や、共調整を価値付ける声掛けをして、より協働のよさを実感できるようにする必要がある。